

# 文化高知

2009年1月 NO.147



「瑞氣集門」 岡林御舟

〈もくじ〉

眠れる獅子 .....	尾崎正直	2
時代が人をつくる? .....	池内 了	3
「古仏との対話-井上芳明と土佐の仏像-」展を終えて .....	北 泰子	4~5
〈学校林が子どもたちに近づいてきた〉 .....	門田雅人	6~7
高知県の課題——社会経済の側面から考える(4) .....	福田善乙	8~9
ナマステ ネパール! (上) .....	嶋崎京都	10
言葉の現場から⑬ 「素朴な琴」と「ゴジラ」のなぞ .....	広井 護	11
高知のギャラリー⑨ gallery lala .....	三宮 梢	12
11月~12月の事業から .....		13
風俗歳時記・風伯 .....		14~15

# 眠れる獅子

## 尾崎正直

大学進学から、就職、結婚、そして二人の子どもも生まれ、仕事と子育てに追われる日々。故郷高知を離れて約二十年。この間、任地の変更も多く、通算四年間の外国暮らしも経て、これまでの引越し回数も十回にのぼりました。土地が変わり、暮らしが変わり、私の体型も次第に変わり、と。でも、こうした中でも変わらなかつたことがひとつあります。

それは、自分は高知生まれだ、という誇りです。少し大げさに言えば、高知県人としてのアイデンティティを持ち続けてきたこと、となりましようか。アメリカのボストンでも、インドネシアのジャカルタでも、どの任地においても私は、自己紹介の時必ず、「土佐の高知の出身です」と言ってきました。すると、ほぼ確実に、「高知出身なら酒が強いだろう」とか、「坂本龍馬の国、豪快な土地柄ですね」との、前向きな反応が返ってくる。これがうれしくて、お酒を飲みながら高知自慢を連発。「少々飲めます」といえば、高知では「二升をさします」「それはすごい！」とのやりとりも何度繰り返したかわかりません。

こうしたことの繰り返しですが私に高知県人としての矜持を持たせ続けて

くれたのだと思っております。見方を変えれば、こうした高知の「ポジティブ」なイメージが全国的にも多くの人々に浸透していることを、私は実感し続けてまいりました。高知の全国におけるイメージは良い、私は確信を持っております。

しかしながら、なぜ、高知は元気がないのか。高知の存在感が、なぜ全国の中でも小さく、小さくなってしまったのか。

高知に帰り、知事に就任させていただいて一年、私は、このことを考え続けてきました。どうしたら県民の皆様が将来に希望を持って暮らすことができるようになるのか、県勢を浮揚させるためにはどうすれば良いのか。多くの皆様方のお知恵とお力を賜りながら、その答えを見つけていくべく努力し続けた一年だと思っております。

多くの方々が指摘されるように、本県には、「強み」がたくさんあります。大手旅行雑誌で「全国一おいしい」と評価を受けるすばらしい食べ物。豊かな自然から生み出される優れた食材と地域、地域の食文化がそれを創り出しているわけです。また、坂本龍馬や四万十川・仁淀川に

代表される全国に通じる偉大な歴史と自然、さらには、全国百カ所にも広がった「よさこい鳴子踊り」、おもてなしの心と活力に溢れる県民性等々、これらも全国に誇る高知の「強み」です。

しかし、県経済は極めて厳しく、若者の県外流出も続いています。本県の経済状況はここ数年来の全国の景気回復の波に乘れないままです。四国の他県は回復しても高知だけは浮揚できないでいる、こうした状況に鑑みれば、本県固有の経済体質の衰えがあると言わざるを得ません。そして今度は、世界的な金融危機の荒波が押し寄せてきています。

「眠れる獅子」。素晴らしい強み、潜在力を有しているけれども、それを開花できないでいる。これが今の高知県の姿ではないでしょうか。どうすれば獅子の目を覚ますことができるのか。小手先の対応策ではない。まだまだ時間もかかっても、根本課題に果敢に挑戦しなければならぬ、四国の他県にも差をつけられた高知県経済の構造的な課題に真正面から対峙し抜本的な解決を図るほかはない。

これがこの一年間の私の結論です。

昨年四月からおよそ一年かけて県勢浮揚に向けたトータルプラン「高知県産業振興計画」を策定してまいりました。昨年十一月の中間取りまとめを経て、年度内にはプランを作り終え、根本課題に対する三つの挑戦、すなわち「地産地消＋地産外商」「産業間連携の強化」「足腰を強め新分野へ挑戦」に、新年度から果敢に取り組み覚悟です。人口が減り、高齢化が進み、小さくなり続ける県内市場頼りの経済運営では先々ジリ貧とならざるを得ません。地産地消に加え、新たに、活力ある県外に打って出る「地産外商」に力を入れることが必要です。人の光を受けて輝く「月」ではなく、自らの持てる強みを磨き上げ、凝縮して、他を輝き照らす「太陽」のような存在をめざしたいと思えます。今まで弱かった産業間の連携を強化し、素材販売から加工品まで、高知の食を活かす。そして、すばらしい自然と歴史とセツトにして全国にアピールする、売り込む、こうした取り組みを進めていきたいと考えます。

「眠れる獅子」が起き上がり、走り出す、そのために私は県民の皆様とともに力を尽くしてまいりたい。「獅子」の闘志が徐々に沸き立つ、そうした年となることを。

(おさきまさなお／高知県知事)

## 高知

「明治維新からしばらくは高知から偉人が多く出たが、最近はおなくなりました」と嘆かれた。確かに、高知からは、明治維新前後に坂本龍馬をはじめとして後藤象二郎や板垣退助、中江兆民や岩崎弥太郎、牧野富太郎や寺田寅彦（東京生まれだが高知人と言え）など、まだまだたくさんいるだろう。政治・文化・経済・科学など広い分野にわたって多くの優れた人材を輩出した。それに比して、最近では高知出身者で活躍する人物をあまり聞かないのは事実である。なぜだろうか？

時代の変革期には多くの天才や秀才が続々と現れるのが常である。科学の分野で言えば、一七世紀の科学革命の時代、ガリレオやニュートンだけでなく、フック、ボイル、ホイヘンス、ゲーリーケ、トリチェリなど優れた仕事を残した人物が相次いだ。また、二〇世紀初頭の量子力学誕生の時代にも、ラザフォード、ハイゼンベルグ、シュレジンガー、ディラック、パウリ、キュリー夫人、ボルンなど、錚々たる科学者が登場して時代を画する業績を残している。この二つの科学革命が起こった間では、フアラディやマクスウェルが出たも



プロフィール 一九四四年、兵庫県生まれ。京都大学大学院理学研究科物理学科修了。理学博士。国立天文台教授、名古屋大学教授、早稲田大学教授などを経て、現職。専門は宇宙物理学。

の、極めて数は少ない。人間の能力が革命の時期に合わせるように急が高くなるわけではないから、時代が人物を作り上げたと考えるべきだろう。

科学の場合は比較的容易にそれが証明できる。科学革命（パラダイム変換」とも言う）の時代には新し

い原理や法則（パラダイム）が発見され、一気に科学の地平が広がり、多くの科学者が新分野の第一人者になれる。しかし、いったん新概念が定着して問題が汲み尽くされてしまうと、後は非常に困難な問題しか残されぬ。いくら有能であっても簡単に解決できず、少数の天才以外は無名のままで終わってしまう。つまり、いつの時代でも能力ある人間は出現しているのだが、そのときにパラダイム変換が起こったかどうかで、有名人と無名人の差が生じるのだ。

政治や経済の世界にも同様なことが言えるのではないだろうか。政治や経済のシステムが大きく変わる時代には、新しく目覚めた人間には多くのチャンスがあり、それを的確に掴めば名を残せたのだ。新情勢を嗅ぎ取る嗅覚は必要だが、野望なら誰しもが持つっており、そんなに特殊な能力ではない。ところが、現代のような閉塞の時代には、いくら有能であっても大きく活躍する場がほとんどないのが実情である。時間は加速されマイナーチェンジはあるが、大きく変化することには危険すぎて手

が出せなくなつたのだ。そのため、どの分野でも小粒な人物ばかりになってしまった。現状を維持すること

に汲々とする政治家や経済人しかお目にかかつていないのがその証拠である。（むろん、私も小粒な科学者の一人である。）

高知は、南に太平洋が開けているだけあって、大きな夢に賭ける気風が自然に醸成する土地柄ではないかと推測している。変革の時代にマッチすれば実力を大いに発揮するのである。ところが、熟成の時代には活躍する場が見いだせない。日本という狭い国の細々とした事象にはそもそも興味を持ってないからだ。小才を効かせて世を巧みに渡ることには、少々気恥ずかしくて真剣になれないという気分もあるのではないだろうか。誇り高いのである。海の幸や山の幸に豊かな高知であればこそ、その生き様が許容されているのでは、と感じる。

個人の力だけでは時代の大きなうねりを作り出すことはできないが、その産声はあげることができ。太平洋の荒波を越えて未来を先取りする次代の坂本龍馬が出現することを期待している。

いけうちさとる  
（総合研究大学院大学教授）

「遠い遠いその昔、彫られた方は何を思っ造られたのでしょうか。一体一体の前で語りかけると、静かに言葉が返ってくるようで、時のたつのも忘れ、会話をさせて頂きました」

これは、「古仏との対話—井上芳明と土佐の仏像—」展の会場に置いた感想ノートに、来館者のお一人が書いてくださった言葉です。

平成二十年九月二十七日から十一月九日まで、香美市立美術館では、高知の古い時代（奈良・平安・鎌倉）の仏像と、仏像写真のコラボレーション展を開催しました。期間中、一万三千八百人を超す皆様にご来館いただきました。芳名帳を見ると、遠くは北海道、秋田、そして東京、名古屋、奈良、広島など県外からの来館者も多く、高知龍馬空港やJR高知駅・土佐山田駅で、当館までの道順を尋ねた方が多かったと聞いています。

この展覧会は今年から二年半くらい前になるでしょうか、当時高知女子大学助教授でいらした青木淳先生（現多摩美術大学准教授）と、東京在住の写真家・井上芳明さんが当館に来られ、「十年近く高知の仏像を調査、研究してきたが、高知には古い時代のすばらしい仏像が多数残されており、井上さんは調査に

同行するなどして県内の仏像写真を撮っているのです、この館で写真と本物の仏像で展覧会をしませんか」という企画提案から始まりました。

井上さんの素敵な仏像写真を拝見しながら、「これはやってみよう」と思い、すでに予定していた企画を変更し、「この時期ならできます」と即座に返事をしてしまいました。

最初は、写真を中心に破損仏を含む数体と聞いていましたが、開催時期が近づくにつれて仏像の数が増え、国の重要文化財六体を含む、県指定、市町村指定の文化財二十五体となりました。そこからの準備の大変さは、毎日毎日まるまる慣れない網渡りをしていくようなハラハラドキドキの連続でした。県の文化財課のご指導を受けながら、国指定の重要文化財公開の申請書を準備しましたが、当館の設備では公開の基準にとどかず、最終的には出陳予定寺院のご協力を得て、所有者公開ということで、やっとな文化庁の担当官の許可をいただきました。

この展覧会の主催はもちろん当館でしたが、監修の青木先生をはじめ、共催を引き受けてくださった各寺院、協賛、協力、

かりができていました。

大豊町定福寺の六地藏像、室戸市の権名十一面観音像、金剛頂寺聖観音菩薩像、歎喜寺古仏群、安田町北寺の薬師如来坐像・菩薩形立像・天部形立像、馬路村金林寺菩薩形立像・天部形立像、高知市雪隠寺善賦師童子像、土佐市清瀧寺薬師如来像、それぞれ、八百年から千年の時間を越えて祈りのかたちとして守られてきた仏像のすばらしさは、一般の方々のみならず、美術、歴史、信仰に関わる専門家の心も引きつける魅力に溢れています。

この大日如来像の修理のためにと、多くの皆様から募金が集まり、会期終了後も現金書留で多額の寄付が送られてきたり、日本画家の中村達志さんがこの像の素描画とポストカードの売り上げを寄付されるなど、協力が絶えませんでした。現在は像の修理、安全面を考え、地元の皆様からのご要望で、当館の収蔵庫にお入りいただいておりますが、大日如来様のお顔を拝見していると、「発見してあげてありがとう。とても感謝しています。でも、あまり騒がれるのは好きではないのです。風の入ってこない暗い収蔵庫は苦手です。一日も早く元の場所に帰り、静かに人々を見守っていきたいのです」とおっしゃるお声が聞こえてくるようです。

## 古仏との対話

香美市立美術館  
平成二十年九月二十七日から十一月九日まで



（関連企画）会場アトリエ  
①「写真展」9/27～10/13 夜の目（Laviniosa）— 田辺初男の世界—  
②「展覧会」10/16～10/26 祈りの石語り— 岡村丹波の世界—

# 「古仏との対話—井上芳明と土佐の仏像—」展を終えて

北 泰子

後援の各団体、個人の皆様のお力をお借りしてできた展覧会でした。関わってくださった方々のお名前を挙げていくと、それだけで、この誌面が全部埋まってしまいうくらいたくさんの方々にご協力をいただきました。

日も欠かさずお経をあげに来てくださった清瀧寺の伊東聖隆ご住職のおかげで、会場が清められ、ご来館いただく方々の健康や安全までも守っていただいていたのではないかと思います。仏像に逢うために一度のみならず二度、三度と館に足を運んでくださった方も多く、六度お越しになった方もいらっしゃるようです。

須崎市上分の地元では、大日如来像修復保存実行委員会を発足させ、募金活動を始めています。一日も早く、大日如来像が修復され、気高く慈愛に満ちたお姿を後世に残していけるように、引き続き、皆様のご協力をいただきたいと思います。青木先生の「未来に継承すべき高知県の文化遺産の一つとして多くの人に見守り続けてもらいたい」とおっしゃった言葉を、私たちは忘れてはならないと思います。



強く感じています。

この展覧会の開催を通して、美術館として今後なすべき役割の重大性を再認識させていただきました。芸術・文化が人間の生活の中になくてはならないものであり、それは継続的な努力により守り育てていかなければならないと強く思いました。

最後になりましたが、この場をお借りし、「古仏との対話—」展にご支援、ご協力をいただきましたすべての皆様に心より感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。

きたやすこ  
香美市立美術館館長



清瀧寺 薬師如来像・写真 井上芳明

私たちは、自分に関わりが少ないうちに、自分に対して冷淡です。庭先に可憐な花を咲かせる草花も栽培種でなければ、一括りにして雑草と呼びます。山林の樹木についても同じことが言えるでしょう。広葉樹を中心にして雑木と言われる木々の名前を言えるかどうかは、子どもたちに限らず多くの大人にとっても心もとない。というよりも、杉と松の区別さえつかない人が増えているのが現実です。

かつて、親や祖父母たちは、子どもの健やかな成長を願いながら、その節目、節目で杉や松を植えてきました。点在する学校林も同じ趣旨で、地域の人々が植林をする、下草刈りをする、間伐をするなど世話をしました。学校の建て替えの建築資材にするとか、学校の大きな行事に当たつての資金にするためだったのでしょうか。杉や松は値段も高く需要も多かったのです。私個人にも、「あれは雅人が小学校入学のときに植えた松だ」と祖父から言われてきた木々があります。このように、杉や松の植林は、先人たちが戦後営々と真面目に築いてきた伝統でした。しかし、安価な外国木材の輸入や林業の衰退、そのうえ、学校林の保全に関しては、保護者の絶対数の減少などを原因として、高知県の山野



屋の材料として活用されました。

本校は二〇〇五年から三年間、「高知県山の学習支援事業」の指定を受けてきました。加えて、PTAとしても〇七年、〇八年と山の日の事業に取り組み、峰の上の東屋の完成、ツリーハウスの製作支援、米奥・沈下橋夏祭り、木製大型遊具づくりなどに協力・協働してきました。一方、子どもたちは、学校行事としての位置づけや生活科、総合学習として様々な活動を展開しました。①東屋やツリーハウスの落成と運動した餅つき②学校林周遊道の大型案内看板づくり③春の山菜と秋の木の実の採集活動④学校階段蹴込部四カ所を板張りにしてイラストを描くこと

の杉や松の多くは放置されることになりました。間伐する人手がない。苦勞して伐採して運び出しても、元手さえ回収できない状況が生まれてしまいました。

米奥小は全部で五つの学校林を保有しています。過去には七つあった学校林のうち、皆伐などのため管理が困難で荒廃している山などを町当局に返還したあと残っているものです。地域の方と現地実地調査をしてはいましたが、整備や管理には困難が伴うことを覚悟していました。

地域とともに四万十川と  
学校林を活かす

学校林が子どもたちに  
近づいてきた

門田雅人

などです。そして、なにより⑤自分たちの取り組みを校内、保護者や地域の人々に発表する活動を大切にしてきたのです。

地域とともに学校林を活かす取り組みを継続することを通して、子どもたちと保護者・地域に大きな変化が生まれてきました。学校林をはじめとする目前の山々が（四万十川との関わりと同じく）単に眺める対象から、日常的に関わりを持つ、親しい対象になりました。子どもたちと学校林を散策しているときでも、樹形が似ている樹木を見上げながら「この落ち葉は三枚葉なのでタカノツメで、五枚葉はコシアブラでねえ」と話しかけてきます。校庭の端にある梅やヤマモモの実は高学年生によって、ジュースや梅干に変身してみんなに歓迎されました。竹林が伐採整備されてたわに実りだした渋柿は低・中学年生が吊し柿や渋抜きに挑戦。山々のアケビや椎の実も、野遊びの後で味わう経験が増えたようです。

学校と協働しながらお世話をしてくださる方々の存在が、多くの保護者や地域の参加・支援を呼び込んでくれました。樹木や自然のことなら何でもこいの池田さんや建築土木の

したがって、二〇〇四年に「朝霧森林倶楽部」の方から「米奥小の二つの学校林を間伐したい」という申し出があった時は、ありがたく二つ返事です。承りました。それ以降、本校の学校林を巡る状況は大きく変わることになります。

チェーンソーを使つての間伐作業は、主に土曜日に行いました。保護者の多くは仕事の関係で参加が困難でした。校長の私も（かなり年長の先輩たちの足手まといになりながら）時折参加させてもらうにとどまりました。しかし、少人数とはいえ、当時のPTA会長はじめ幾人かの保護者や地域有志も作業に参加してくれて、ともに額に汗しました。三年間で合計約九ヘクタールの学校林の間伐が終了しました。学校林の間伐契約作業中には、町役場田辺林業室長に「四万十式林業作業道」をつけていただきました。「雨に強く環境にも配慮した林道」と全国的に注目されている方式の作業道です。技術者の養成を兼ねていたのでしょうか、これまでにあった林道から、学校林峰の上まで、作業道路が無償で完成しました。

子どもたちにとっても、保護者や

機械と技術を持つ中平さん、時間を見つけては校庭の草刈りや剪定をしてくださる羽方さん、老人クラブの世話役をしている正岡さんは草引きや餅つきなどに高齢者の参加を促してくれました。学校林の樹木標本づくりに大工の腕をふるってくださったのは大川内さん、硬い樫の木や桜を削って四十個も叩きゴマをつくってくださったのは田村さんです。挙げればきりのないほどの方々が応援団になってくれました。

また、林業事務所や土木事務所、町役場の各担当課の支援、「森と緑の会」などの物心両面の援助もありがたいものでした。ツリーハウスづくりなどには、専門的な見識を持った浜氏さんを紹介してもらいました。本校の様々な取り組みでは、幾人かのコーディネーターを外部に持つことで、余裕を持つ適切な計画や設計が成立しました。これらの方々と地域が学校を支えてくださることに応えて子どもや保護者も力を発揮できたのです。

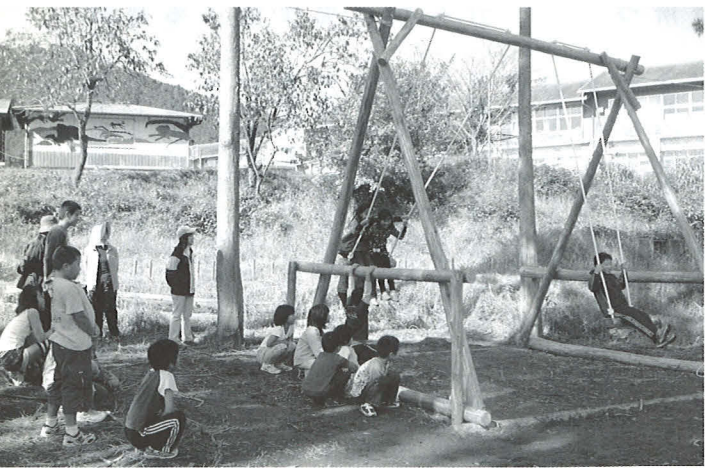
最近、六年生を中心に、約二・五ヘクタールの学校林に雑木を植樹する計画が持ち上がっています。学習してきた



到達段階として、「中学生や高校生、地域の人々や関連した公共機関、民間の支援団体などに呼びかけて、連携した取り組みができないか」というのです。

この夢を実現することができたら、子どもたちが成人してからも故郷が強く胸に刻まれているはずではないか。そんな学校林を地域とともに創生したいと考えています。

かどたまさと  
四万十町立米奥小学校校長



# 高知県の課題

— 社会経済の側面から考える (4) —

## ■ 地域づくりの四つの柱と四つの視点 ■

福田善乙

### 四つの柱・四つの視点

今回で最終回となるが、地域づくりをどのようにすすめていく必要があるのか。特に農山漁村地域では地域を活性化するための特効薬はないのであり、地域住民が主体になって地道に地域づくりをするしかないのである。

私は地域活性化のための四つの柱と四つの視点を考えているので、それを提案したい。

### 柱・1—ものづくり

まず、四つの柱である。第一に、

また、若者が定住するためには、日常生活・暮らしが「美しい」「様になる」ことも大切であるし、文化もこれまでの文化を継承するとともに、新しい時代に合った文化もつくっていくことが大切になっている。

### 柱・4—内発的交流

#### ネットワークづくり

第四に、内発的交流ネットワークづくりである。地域内・外を通して交流し、お互いが豊かになることが大切になっているし、地に足をつけながら、広い視野で地域づくりをしていくことである。足元から世界を考える視点から広く交流・連携をすすめて、より豊かな地域づくりをすることである。

都市と農山漁村地域とのヒト・モノ・カネ・情報の交流を深めることによって、お互いに地域の活性化と定住人口の増加をはかることが大切な課題となっている。

「内発的交流」というのは、都市と農村の交流のあり方において、これまでではややもすれば都市のための農村という関係が強かったが、これからは都市の活性化が農村の活性化になり、農村の活性化が都市の活性化になるような交流関係をつくること

ものづくりである。ものづくりは人間が生きていくための基礎であり、生産の拡大と雇用の場の創出が必要である。生産の場、労働の場、仕事の場の創出である。

そのためには、まず農林漁業そのものおよびその産物の加工業の活性化をめざすことである。そのときは地域の宝物Ⅱ自然・環境・生命・歴史・教育・文化・資源・技術・資本・人材を最大限に生かしていくことである。特に地域資源を最大限生かして、その加工もすすめていくことである。

その典型を示しているのが馬路村である。馬路村は、清涼飲料「ごっくん馬路村」やスポーツ飲料「スー

いうことである。

### 視点・1—地域の宝物を大切に

次に、四つの視点について述べていきたい。まず**第一に**、ものづくりのときにも指摘したが、地域の宝物Ⅱ自然・環境・生命・歴史・教育・文化・資源・技術・資本・人材を最大限に生かすという視点である。馬路村のユズ、室戸市の室戸海洋深層水、大豊町の碁石茶などがその事例となる。室戸海洋深層水の活用をみても、関連商品の売上高は一四八億円にのぼり、地域への企業立地や雇用の拡大もすすんでいる。

この地域の宝物は物的資源に限らない。「雲の上」のような山間地にあるということも一つの宝物である。檮原町は「雲の上」にある町というコンセプトで、「雲の上のまち」「雲の上のレストラン」「雲の上のホテル」「雲の上の温泉」「雲の上の雫」(酒の名前)「ライダーズイン雲の上」などと打ち出したまちづくりをしている。黒潮町の大方町も砂浜があることを活用して砂浜美術館を設定し、Tシャツアート展などをおこなっている。また、くじらの見える砂浜でつくる「ラッキョウ」を「くじらっきよ」と名付けて販売している。

パーごっくん」などユズの加工品で全国的に知られているが、これは地域の資源Ⅱユズの活用によって捨ておかれたユズの活用(無農薬・無消毒)は自然志向、健康志向、無農薬志向の時代の要請もあって、生産拡大した。そして、三〇億円の売り上げと八十人の雇用を生み出した。また、村全体を売るやり方、通信販売という販売方式など、馬路村からは学ぶことが多い。

### 柱・2—人づくり

**第二に**、人づくりである。ものづくりに成功して雇用の場ができ、所得が増加したとしても、それだけで地域が豊かになるわけではない。地域に生きている人間が人間として豊かになることが大切である。

すなわち、家庭教育、小・中・高校・大学の学校教育、社会教育を通じて地域を知り、地域に誇りと愛着をもつ人間がどれくらいたくさん育っていくかが鍵である。

そのために、第一に、家庭で親子ともに自分たちが生きていることの誇りと愛着を伝えていくことである。これが意外と伝わっていないように思える。

**第二に**、学校教育、特に小・中学

### 視点・2—時代の変化・流れをつかめ

**第二に**、時代の変化・流れを素早くキャッチする視点である。これは生活・流通から生産をみる視点とも重なりあう。

これは時代に追従することではない。時代の変化や流れを的確につかみ、本当に必要なものはなにか、本当に求められているものはなにかをつかみ、それに合ったものを生産し販売することである。東京の有名スーパーで高知産のユズ一個が四〇〇〜五〇〇円しているのをみると、流通はどうかしているのか、的確にかむ必要性を感じる。

### 視点・3—マイナスをプラスに

**第三に**、不利な条件を有利な条件に転化する視点、マイナスをプラスにする視点である。

たとえば、人口流出(減少)のとりえである。人口が流出して減少するということは、その地域の担い手が流出・減少することであり、地域にとっては大変である。しかし、この人口の流出・減少を、その地域から他の地域に「人材」を「派遣」したと考えるとどうなるか。その地

校で地域の歴史・現状・将来についてじっくり教育する必要がある。私は最近では高校での教育が大切になっていると考える。高校生は自意識が育つ時期であり、自主的な感受性が育つ時期にフィールドワークをしてほしいと思う。

### 柱・3—地域社会づくり

**第三に**、地域社会(地域コミュニティ)づくりである。ものづくりがおこなわれて生産の拡大と雇用の場ができ、人間として豊かな人づくりができ、それでいいのかといえ、それでも不十分である。生産と生活がおこなわれ、人と人との結びつきができる場(空間的領域)としての地域社会が豊かになることが必要である。

地域社会には「にぎわい」と「結びつきⅡ絆」と「癒し」「ゆとり」が必要になっている。特に、過疎化と高齢化がすすみ、協働して葬儀もできなくなっている農山漁村地域では、新しい近代的な協働意識Ⅱ和づくりが大切になっている。

現在、スポーツ・音楽・踊りなどの趣味や祭りやイベントなどで新しい結びつきの輪ができつつある。これがさらに広がることを期待したい。

域にいる住民とその地域から「派遣」した流出住民が同じ地域の住民として力を合わせて地域の活性化に取り組めばすてきなことである。人口流出が不利な条件から有利な条件になるのである。

高知県から七五万人ほど転出(転勤を含め)しているが、その家族を合わせると三〇〇万人ぐらいになる。高知県にいる八〇万人と高知県から派遣した三〇〇万人の高知県人が力を合わせれば大きな力となる。

### 視点・4—地域のリーダーを育てよ

**第四に**、地域のリーダーの存在とリーダーを育てる視点である。

活性化している地域をみると、必ず地域のリーダーが存在する。馬路村には東谷望史さん、徳島県上勝町には横石知二さん、愛媛県双海町には若松進一さんなどである。地域のリーダーがどれくらい多くなるのが地域の活性化には欠かせない要件である。それゆえ、地域のリーダーが存在することと次のリーダーをどのように育成するかが大切になっているのである。地域づくりは最後には必ず人の問題になるからである。

ふくだよしお  
高知短期大学名誉教授



「ナマステ」(こんにちは)  
最初はカンニングペーパーを見ながら小さな声でしか言えなかった。

両方の手のひらを胸の前で合わせ、黒い澄んだ瞳の子どもたちがはにかんで答える。

「ナマステ」

JICA(国際協力機構)が毎年主催している四国内の小・中・高校の教員を対象とした教師海外研修。本年度はネパールで八月十日〜十九日に催された。これは学校における国際理解教育の場で、子どもたちや同僚に現地での見聞を還元することを主な目的としている。

私がこの研修に参加するきっかけとなったのは、五年前の夏にJICA中国の主催で行われた「高校生国際協力体験プログラム」への引率だった。世界の人々の窮状や、そこで活躍する青年海外協力隊員の活動を改めて知り、日本にいて何もできない自分にもどこかしさを感じながら以後毎夏引率を続けてきた。でも、この夏は違った。

もっと知りたい。感じたい。そして伝えたい。

# ナマステネパール!

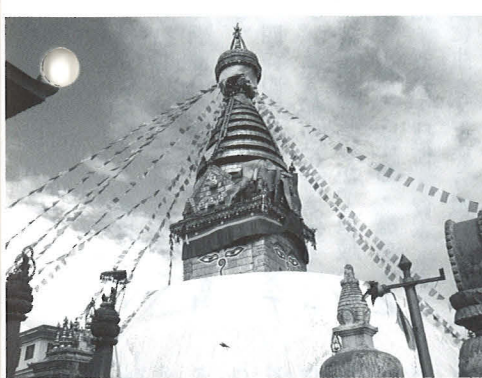
鳴崎京都

以前のプログラムでネパールに関心を持っていた私は、送付された研修案内の行き先「ネパール」の文字に背中を押され、四国内の先生方七人とJICA職員一人とともに現地に赴くことになった。

とは言うものの、ネパールの正確な位置や文化、ネパール語はもちろんのこと、英会話すらおぼつかない。出発までの数カ月、必死でネパールのことを調べ勉強した。いや、したつもりだった。

でも、私が机上で学んだのは水山の一角。現地で触れるすべてのもの、すべての人が、そこでの「真」であった。

この国でまず目に飛び込んできたのはたたくさんの車、路上に無造作に捨てられたごみ、そして人々の強いまなざしであった。信号機



が国内に十基ほどしかないというだけあり、道路は無法地帯と化し、クラクションを鳴らし続ける車がひしめき合っている。行き交うバスには人々が押し込まれ、天井にまで乗客があふれている。こんな光景を私はこれまで見たことがない。

一方郊外に行けば、そこは貧しいが古き良きかつての日本を彷彿とさせる風景と時間が流れている。

「カトマンズを見てネパールだと思わないでください」JICAネパール事務所長の言葉を思い出す。

この研修のメインは首都カトマンズとその周辺の学校視察である。最初に訪れたのはラリットカラヤン中学校。整備されていない道路沿いの壁の、小さな扉の向こうにその学校があった。

正門から校舎までの短い通路の両側で、日本の旗を持った子どもたちが出迎えてくれた。私たち一人ひとりの首にかけてくれたマリーゴールドの花の首飾り、そして校舎の窓から覗くたくさんの小さな笑顔に思わず胸が熱くなった。期待・ホスピタリティという言葉がまさにこれである。確信した。これは、山奥にあるチャイマレマザースクールでも同じだった。



日本の学校で海外留学生へのおもてなしで用意する、ラッピングの施された色とりどりのきれいな花にも負けない、優しい気持ちでできた花束だった。

しまさきみやこ  
高知県立高知南高等学校教諭

## 言葉

の現場から⑬

「素朴な琴」と「ゴジラ」のなぞ

広井 護

秋になると、思い出す詩がある。

素朴な琴

八木重吉

このあかるさのなかへ  
ひとつの素朴な琴をおけば  
秋の美しさに耐えかねて  
琴はずかに鳴りいだすだろう

素朴な一筆書きのような詩で心にしみる。美しい秋の情景が自然に心に浮かんでくる。

実はこの詩には深い「なぞ」がある。秋の風物を何一つ具体的に描写していないのに、美しい秋の景色が絵のように鮮明に浮かんでくる。なぜだろう。

あるとき気がついた。これは、夜見る夢と同じ仕組みでつむぎ出された詩ではないかと。

心理学者ユングの夢分析の本の中に、ある人物の見た「川を渡る夢」が、無意識の「決断」を表していたという話がある。「ルビコン川を渡

る」という「決断」を意味する慣用語が、そのまま視覚化された夢だ。

夢は無意識の心の動きをイメージ化する働きを持つているらしい。そして暗号を解読するように、夢は読み解くことができるものらしい。

「素朴な琴」という比喻を、夢の中のイメージと考えてみよう。するとある言葉が浮かんでくる。「琴線」だ。詩人の「心の琴線」を「琴の糸」として視覚化したもの。それが「素朴な琴」ではないだろうか。この鮮やかな比喻は夢と同じように、詩人の無意識の心のふるえを伝える一種の「暗号」として読者の意識にはたらきかけてくるのではなからうか。

もう一つ。この詩のなぞが解けたと思った瞬間がある。意外な映画を見ていたときだった。それは「ゴジラ」モノクロ映画の「ゴジラ」(ビデオ)である。

元祖ゴジラは、なかなか姿を見せない。かわりに描かれるのは、巨大な足跡、鳴き声、恐怖にひきつる

人々の表情など。これらを通して、間接的にゴジラの恐ろしさが描写されている。

リアクションを通して、アクションを想像させる。元祖「ゴジラ」は、特撮技術の未熟さを、この「間接描写」という手法で補っていた。たとえば、以後の怪獣映画にけっして出てこないシーンがある。それは、負傷者が横たわる病院だ。病院のベツトは満杯で、人々は廊下に横たわってうめいている。その間をぬって、青ざめた顔の看護婦が次々と走り過ぎる。輸血の血が不足している。…

そのとき薄闇の中に黒々と浮かび上がる巨大なシルエツト。不気味な鳴き声。

焦土と化した東京の描写も異様にリアルだ。あるミツシヨンの女子高では講堂で、犠牲者の冥福を祈る歌が歌われている。その静かな歌声が、焦土の上を流れてゆく。見ているうちに気がついた。これは、原爆

投下後の広島、長崎の風景を比喻したものだ。ゴジラは、核実験によって生み出された破壊の化身だ。元祖「ゴジラ」は、たんなる怪獣映画ではなく、反核平和を訴える反戦映画でもあった。

ゴジラの黒いシルエツトが秀逸だった。細部が見えないので、観客は想像の中で、最も恐ろしいゴジラの姿をつくりあげる。そして観客は、無意識のうちに「ゴジラ」と「原爆」を重ね合わせる。すると「核戦争の脅威」というテーマが、知らないうちに心にざざみこまれる。

これと同じ構図が「素朴な琴」からも読み取れる。「素朴な琴」は、詩人の「心の琴線」を比喻している。その琴線が「耐えきれずに鳴りいだす」のは、秋の風景が美しすぎるためだ。「鳴りいだす」というリアクションを通して、最も美しい秋の風景を読者はありありと想像する。

読者は、無意識のうちに「心の琴線」と「秋の風景」を重ね合わせる。すると、詩人の心の琴線のふるえを通して、最も美しい秋の情景を体験することになる。それがこの詩の魅力の核心ではないだろうか。

美しい言葉の背後には深い意味が隠されている。それを読み解くのが読むことの醍醐味だ。

「素朴な琴」と「ゴジラ」。一見突飛な比較だが、「なぞ」にこだわることで意外な共通点が見えてくる。私は中学生に国語を教えているのだが、こういう「なぞ解きの面白さ」を、授業の中でも伝えたいものだと願ひながら日々教壇に立っている。(ひろいまもる/土佐中学校教諭)

高知市文化振興事業団

11月～12月の事業から

第3回 Concours des Tableaux 企画展 久保菜月展

2008年1月22日(火)から27日(日)に行われた第3回美術作品コンクールConcours des Tableaux最優秀賞受賞者の久保菜月さんの企画展を、同年12月16日(火)から21日(日)の約1週間、市民ギャラリー第5展示室で開催しました。最優秀賞受賞作の「Outflow～今とその先～」を含むアクリル画10点を展示。審査員を務めた茂木健一郎さんが評した「日本画が持つ静かな不気味さも有した作品」が織りなす、独特の空間が訪れた観客を魅了しました。久保さんの作品は、高知麻紙にアクリル絵の具を使って描いたもので、すべての作品に共通したモチーフとして金魚が描かれています。久保さんは「モチーフに使っている金魚は、改良を重ね美しくなるほどに本来の姿を失っていく悲しい生き物です。そんな野生を失っていく美しくも悲しい姿は、現代の私たちに近いものがあるのではないのでしょうか」と話しています。訪れた人は、そんな久保さんの世界を一つ一つじっくりと感じたようです。



第4回美術作品コンクール  
Concours des Tableaux 応募作品展

最終日の公開審査には、それぞれの出品作品の前で審査員から直接講評を聞くことができます。美術界の最先端で活躍する審査員の貴重な講評を、あなたも聞いてみませんか？

一般鑑賞：2009年1月20日(火)～25日(日) 10:00～17:00  
公開審査：1月25日(日) 14:00～16:00  
表彰式：同日 16:00～(予定)  
会場：高知市文化プラザかるぽーと7F 第1展示室

審査員：榎野野衣  
-Sawaragi Noi-



1962年生まれ。同志社大学で哲学を学んだあと、90年代頭にデビューしたばかりの村上隆やヤノベケンジら同世代の美術家たちと展覧会を組織。評論集「シュミレーショニズム」(ちくま学芸文庫所収)で批判的な背景を提出し、東京を拠点に活動を始める。主著に「日本・現代・美術」(新潮社)、「戦争と万博」(美術出版社)他多数。2007年から2008年にかけてロンドン芸術大学TrAIN客員研究員として英国に滞在。現在、多摩美術大学美術部准教授。美術評論家連盟(AICA日本支部)常任委員。

高知のギャラリー⑨

婦人服とギャラリー  
gallery lala

三宮 梢



洋服屋を営む家に生まれ、学校が休みの日はいつもお店に通い、洋服に触れていたかった小さい頃の私の夢は、母と一緒にお店に立つことでした。そんな私の夢が一九九八年の突然の集中豪雨で消えてしまいました。たいへんな被害に遭い、両親の店は廃業してしまっただけです。それでも、私は再建の夢を持ちつつ、大好きな洋服の仕事を続けていました。そんな中、縁あって、現在

よって、お店がいろいろ空間に変化し、たくさんの方々の素晴らしい作品に出会えることに感謝しています。なかでも「タヒチ展」私の好きなタヒチの色々々」は、高知在住の中学一年生の女の子がダンスを学びに通っている国、タヒチを紹介したものです。現地で集めたバレオや伝統民芸



の宝永町(江ノ口川沿い)に、お散歩の途中で立ち寄れる、気取りのないセレクトショップ&ギャラリー「gallery lala」を昨年の七月にオープンすることができました。企画展の会期以外には手作り雑貨を随時展示し、洋服とあわせてご覧いただけます。また、貸しギャラリーとして一週間一万円でご利用いただけるので、気軽にいろんなジャンルの展示に使っていただきたいと思っています。

品、珍しい楽器などを展示し、店内はまるで南の島に!! 会期中二度、タヒチアンミニショーも披露してくださいました。ご家族全員でのショーはエネルギーで、0才(一)を含む観客全員でリズムをとり、たいへん楽しいショーとなりました。

「9人の女の子のあったか手作り市」と題して、高知出身・在住の文字どおり9人の女の子の手作り作品(子供服やアクセサリー、小物)を展示販売していたのですが、9人の出合いが波紋となって会期中にも仲間が増え、その後「15人の女の子のあったか手作り市」へと大きくなったのです。

こんな出合いの波紋が、ますます大きく広がりに続けるように、「lala」はこれからも皆様に楽しんでいただけるような企画やイベントを催していきたいと思っています。

「今、何やりゆうかねえ」と本当にお散歩の途中で、立ち寄ってくださいさるお客様が増えていることが今の私の一番の喜びです。

(さんのみやこずえ)



gallery lala  
高知市宝永町九一九  
江ノ口川沿い  
電話〇八八―八八三―一六〇六  
水曜日定休



# 景観考

タケムラナオヤ

## 山田橋

高知に架かる数多の橋の中でも飛び抜けた重厚感と存在感を持つ、江ノ口川の山田橋。あまりにも頑丈過ぎて壊せないし、広げることできないとの噂▼さてこの橋を見ると、最近の橋は変なレリーフが埋め込まれていたり誰も座らないベンチがあったり、100年後にその橋がどうなっているのか想像力が働いていないものばかりだと思ふ▼設計や工事を監督する役人は「この橋が100年間そこにあるということは、役人のセンスがそこに100年残るといふこと」がわかっていないように思える。何年かすればソッと消えるロードサイドの原色看板よりもタチが悪いかも知れない、と少し思ふ▼景観も都市計画も百年の計がなければ壊れていくだけだ。高知市では戦災復興で36m道路を通して今の街の骨格を築いた。戦後と今とじゃ状況は違ふけど、こういう100年先を見通した政策がないと、橋のたもとで晒し者にされたといわれるお馬と純信のレリーフがついた橋になりにかぬ、のだ。

# 風俗

## 負の遺産

去のまた過去の過ぎ去った話であった。彼はいまも自費で戦争のその現場に足を運び、大半の遺骨がそのまま放置されていること、戦争によって心に傷を負った人々がまたその傷が癒えていないことを写真に撮って発表している。そしてまた彼は、日本がいつの間にか敗戦を終戦と

満州事変から太平洋戦争の敗戦までの十五年間の戦争が残した傷跡を撮影している写真家と酒を飲む機会があった。彼の話を聞いていて、父をあの戦争で亡くしているのに、私はいつの間にか戦争のことをすっかり忘れていたことに気づかされた。日々の身過ぎ世過ぎに追われて六十年以上も前の話は、私にとっては過

言い換えていること、満州での「残留孤児」は望んで残留したのではないのだと「戦争孤児」と呼ぶ。また前線での「玉砕」の実態は「餓死」であると断言。日本がかつて関わった戦争の悲惨さや現代の日本の無関心を熱く語った。こんなに半世紀以上も前のことを、自分の人生をかけて記録しているパワーは何なのだろう。人肉をさえ食んでしまう戦争の悲惨さを知ってしまったら、そんな戦争が世界中で行なわれたら、ことへの怒りなのか。写真は記録すること、に大きな意味をもつ、という彼の写真家としての矜持だけで、あの燃えるような力が出ているようにも思えない。一人の人間をここまで熱くさせるかつての戦争とは何なのか。彼を介してあの先の戦争を、もういちど振り返って考えなければならぬ。なぜなら、今私たちが住んでいるこの国の大きな負の遺産は、未だ背負ったままになっているのだから。

(霖)

## 第157回 市民映画会

### マンデラの名もなき看守

南アフリカ初の黒人大統領マンデラー今、秘められた感動の実話が明かされる。



### 悲しみが乾くまで (PG-12)

夫を亡くした女は、夫の親友と暮らし始めた。愛する者を失った二人が、互いに寄り添った奇跡の時間。



© 2008 DREAMWORKS LLC. All Rights Reserved.

と き：2月13日(金)・2月14日(土)  
ところ：高知市文化プラザかるぼーと大ホール  
上映時間 (両日とも)  
マンデラ ①11:00 ②15:20 ③19:30  
悲しみが乾くまで ①13:10 ②17:25  
料 金：一般前売り1,300円 (当日1,500円)  
割引 (前売り・当日とも) 1,000円  
※学生証、長寿手帳、障害者手帳などをご持参の方は割引料金  
※前売り券は、かるぼーとほか市内各プレイガイドおよび指定のサニーマートで販売。  
※お問い合わせ：(財)高知市文化振興事業団 企画事業課 088-883-5071

## 今号の表紙

### 「瑞氣集門」

岡林御舟

昨年はアメリカのサブプライムローンに端を発した金融危機、原油の高騰など世界の経済が荒れに荒れ、もろに私たちの生活に大変な打撃を与えました。

丑どしの今年は、そういった苦い教訓から脱却して忍耐強く、ずっと我慢もって、あらゆる「氣」、勇気ややる気、気力、元気でこの一年を乗り切ろうではありませんか。

(おかばやしぎょしゅう/書家)



## 高知を撮る

第24回写真コンテスト入賞作品

### はりまや橋電停 (昭和37年 高知市)

中井 秀夫

一年が過ぎるのが齢を重ねること、に随分と早くなるような気がする。この前二十世紀になったと思つたのもう九年。年頭に当たりあらためて「中年と若者の違い」を考えてみた。顔には濃いほつれい線、目じりにはカラスの足跡、腹部にいたっては幅広いおしゃべりベルトをしているつもりが、どう見ても「まわし」だ。外見は若者には劣るが、年をとると積極的になることもある。その「学び」。各地の公開講座や市民大学は、学ぶ意欲のある人たちであふれている。学生時代は総じて必要に駆られての受け身の学習だったが、大人になれば義務でも押し付けでもなく純粋に学びたい意欲が湧いてくる。近年の大学院の社会人入学者数をみても学習意欲は半端ではない。何かに感動するリアクションだって若い頃に比べてヴィヴィッドだ。人気漫談家のDVDの売り上げが100万枚を突破したが、その原動力は何と言つてもおぼちゃんパワー。漫談ライブに足を運んだ元気な女性たちの反

## 「ねびまさる」



### 風俗歳時記

「ねび」は「年をとったこと」にふさわしい行動をする。「まさる」は「勝る」、経験に基づく知恵と買収を備えた行動をするという、現代語にはない素敵な日本語である。老いも若きも平等に今年もまた一歳を重ねる。心も表情も豊かに、どちらさまも「ねびまさる人」でありたい。(立花香)

「源氏物語」が書かれて千年。「古文」の教材としての源氏物語は難しいだけだったが、恋愛、嫉妬、欲といった人間臭い部分が今の時代に通じる味わい深い作品だと、ある程度の年齢になれば認識する。物語の中に、「ねびまさる」という言葉が何度も出てくる。「ねび」は「年をとったこと」にふさわしい行動をする。「まさる」は「勝る」、経験に基づく知恵と買収を備えた行動をするという、現代語にはない素敵な日本語である。老いも若きも平等に今年もまた一歳を重ねる。心も表情も豊かに、どちらさまも「ねびまさる人」でありたい。(立花香)



## 第19回 高知出版学術賞 推薦募集

優れた学術研究の振興は、文化や出版の向上のみならず、広く高知県の発展に貢献します。

「高知出版学術賞」は、当該年度における最も優れた学術出版を顕彰することによって、学術研究の振興を図ることを目的としています。該当図書について、皆様のご推薦をお待ちします。

### 【対象】

次の事項をみたすもの。

- 1) 高知県内に在住する者の学術的著述、または、県外在住者で高知県に関する事項をテーマにした学術的著述。
- 2) 2008年(平成20年)1月1日から12月31日まで(奥付の日付による)に発行された単行本。

### 【推薦】

自薦・他薦を問いません。

必要事項を所定の推薦書に記入し、該当図書2部を添えて審査委員会へ提出して下さい。

(図書は原則として返却しません。)

【受付締切】 1月31日(土)

### 【表彰】

3点以内とし、それぞれの著者または編者に賞状と賞金10万円を贈ります。

### 【推薦・お問い合わせ先】

(財)高知市文化振興事業団 内

高知出版学術賞審査委員会

〒780-8529 高知市九反田2-1

TEL: 088-883-5071

e-mail: kikaku@kfca.jp

要綱・推薦書をご希望の方にはお送りします。

## 第25回 写真コンテスト・高知を撮る

作品募集

どなたでも、一人何点でも応募できます 出品料無料

過去から現在に至る高知県内の出来事や風景、人々の暮らしを記録し、郷土の様々な表情を伝えるとともに、未来の高知のあるべき姿を考えていこうというものです。優れた作品は、入選作品展にてたくさんの方にご覧いただけます。

応募締切 1月31日(土) 発表 3月上旬

### テーマ

#### ● 記録写真部門

記録性を持った高知県に関する写真  
(撮影時期を問わず)

#### ● I LOVE 高知部門

好きな高知の風景・風俗等を表現した写真  
(1年以内に撮影)

- カラー・モノクロともにワイド四ツ切サイズ (254mm×365mm) 以上
- 「記録写真部門」は発泡スチロールパネル貼り
- 「I LOVE 高知部門」はパネル貼り不要
- 組写真は3枚までで、写真の順番と組写真であることを明記して下さい。  
詳しい応募要領は高知市文化振興事業団までお問い合わせ下さい。

### 応募先

- 高知県カメラ商組合加盟店・フジカラープリント取扱店
- (財)高知市文化振興事業団 企画事業課 (月曜休館)  
〒780-8529 高知市九反田2-1  
☎088-883-5071

### 賞

- 特選 2点 (賞状・賞金3万円)
- 準特選 10点以内 (賞状・賞金1万円)  
(各部門とも)

### 入選作品展

平成21年3月17日(火)～22日(日)  
高知市文化プラザ 市民ギャラリー第4展示室



第24回「記録写真部門」準特選  
「ボンバルディア事故機(2枚組の1枚)」川久保 静夫